

団体名	地盤研究会				
所属校舎	駿河台校舎	資格	登録団体(学術)		
顧問	土木工学科 鎌尾 彰司	部長	土木工学専攻 石井 建太郎		
活動場所	駿河台校舎タワー・スコラSB205号室 駿河台校舎タワー・スコラS1109号室		活動日時	平日 16時30分～21時00分	
部員数	所属	男子	女子	入会金	0円
	学部	13名	2名	年間部費	3000円
	短大	0名	0名	合宿案内	夏季休暇中
	大学院	1名	0名	合宿先	—
	小計	14名	2名	合宿費用	—
	合計	※令和4年4月現在 16名			
活動計画	4月 総会&新人歓迎会 9月 合宿 10月 地盤工学会にて発表 11月 CivilEXPOにて発表(船橋校舎) 3月 卒業生道コン				
前年度活動報告	7月 第56回地盤工学研究発表会にて発表(オンライン) 11月 Geomate2021にて発表(オンライン) 12月 理工学部学術講演会にて発表(オンライン)				
活動紹介メッセージ	土木工学科・環境地盤研究室のメンバーとコラボして仲良く地盤に関する活動を行っております。興味のある方、やる気のある方はご連絡下さい。				
団体HP	Circle Photo				

オンライン発表の様子(理工学部学術講演会)

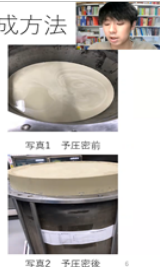
1.研究背景

- 高有機質土とは??
 - 高有機質土と呼ばれる土の母材は湿性植物の遺体であるため、有機物含有率が高く非常に軟弱な地盤をつくる土である。
- 安定材配合率により安定処理した高有機質土の強度特性を土性値として有機物含有量・安定材配合率との関係及び安定した強度(200~300kN/m²)^[9]を目標として研究を実施した。

[9]社団法人セメント協会：地盤改良マニュアルp.198-202,203

大型圧密試験機での供試体作成方法

- ・ 初期含水比
 $w = 90\% = \frac{m_w}{m_c} \times 100$ (水の質量 / (笠岡粘土の質量))
 この値は液性限界の約1.7倍
- ・ 先行荷重 p_0
 20, 50, 100, 300 (kN/m²)
- ・ 圧密打ち切り時間
 双曲線法により圧密度95%以上

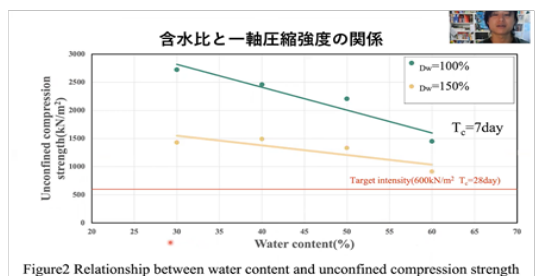


液状化試験の概要

使用した試験機 繰返し非排水三軸試験機

液状化試験のフローチャート

- 予備圧密
- CO₂通気・通水
- 荷重圧加圧 荷重200kPa
- 一次中継確認
- 拘束圧加圧 有効拘束圧100kPa
- 圧密
- 二次中継確認 目標95%以上を確認
- 液状化試験 振動数0.1Hz



お問い合わせ	土木工学専攻 石井 建太郎	e-mail: cske21001@g.nihon-u.ac.jp
	駿河台校舎学生課 03-3259-0608	e-mail: cst.sgakusei@nihon-u.ac.jp